

「活発論議で活動方針決まる！」

第37回全労協定期大会開催

9月28・29日、全労協第37回定期全国大会が全水道会館大会議室で、役員、代議員、傍聴者約70名が参集し開催された。大会次第に則り、大会議長に全国一般全国協議会と国鉄労働組合の代議員を選出した。資格審査委員から、第37回定期大会代議員が規定定数を超え成立していることが告げられ拍手をもって確認した。

はじめに、渡邊議長が挨拶に立ち、「25春闘の闘いは、連合、経営者共に高評価だが、中小企業に働く労働者にはその影響力は限定的。来年26春闘をどう創るかが重要だ。そして、今では最賃近辺で働く労働者が多く、最賃アップの取り組みも重要な闘いとなっている。さらに、労政審の論議が活発化し、労働者の命を守るための労基法が、『労使合意』『労使自治』を前面に出し改悪しようとする動きや、外国人労働者の使い捨て、ヘイト・差別排外主義の課題などナショナルセンターの枠を超えた課題も山積している。一方、組織財政、運営、組拡などの課題もあり、全労協発展のために本大会で十分な論議をお願いしたい。」と挨拶した。その後、争議支援やけんり春闘、政治課題で共に闘う来賓からの挨拶に移り、ラサール石井社民党副党首、鳥居中小ネット代表、山岸移住連代表、金沢顧問、中岡顧問から連帯の挨拶があり、その後休憩に入った。

15時に会議は再開し、関口事務局長から、2024年度活動報告、2025年活動方針、久保会計から、2024年度財政報告、予算が提案され、2日間にわたる論議が開始された。

一日目は議案提案があったことから、発言の時間が少なかったが、続く2日目は十分な時間を確保していたこともあり、2日間で15名の代議員からの発言があり論議は盛り上がった。

代議員からは議案書補強意見として、26春闘の闘い、最賃の闘い、非正規格差問題、JAL争議支援、労基法改悪、2025参議院選報告、ジェンダー問題、排外主義、反戦平和の課題が述べられ、そして、組織的には財政、組織拡大の取り組みの課題と多岐にわたって意見が出され、各課題に執行部から答弁がなされた。その後議案は満場一致で採択された。採択後に、大椿参議院議員から、先の参議院選での支援に対するお礼の言葉が述べられた。また、次期役員選出選挙では2名の新人を含め、全員が信任され次期役員体制が確定した。新旧役員の挨拶、そして渡邊議長の音頭で団結ガンバローを行い第37回定期大会は終了し、参加者は岐路についた。

大会では、大会宣言、労働法制改悪と対決し労働者の権利前進を勝ち取る決議、反戦・平和、護憲を闘う決議、原発再稼働に反対する決議が参加者一同の拍手で採択された。

第37回全労協大会では、自由闊達な意見を出せる組織風土が全労協にはあり、明るく楽しい組織と運動が取り組めるように思えた。県共闘も12月6日(土)、2025年活動総括と2026年度活動方針を決める第34回定期大会が開催される。活発で楽しい組織と運動を目指す方針を大会論議で共に作り、大会の成功を勝ち取ろう！



(議長団選出)



(代議員が発言中)



(議長が先頭に団結ガンバロー)

県共闘第35回定期大会開催のご案内

県共闘傘下労組は、職場・地域で粘り強く、労働条件の向上、労働者の権利を獲得にむけて、そして、安心して暮らせる社会を追求しています。そのためにも大幅賃上げ、働くものが安心して暮らせる社会とするための闘う方針が求められます。

県共闘は、以下の通り第35回大会を開催し、今大会を成功させ、力強く前進していきます。つきましては、以下の日時で大会を開催しますので、ぜひともご参加ください。

◎ 日時

2025年12月6日(土) 14:30 開会

(※ 開場 14時15分からとなります。)

◎ 場所

開港記念会館 第7会議室

県共闘・ボウリング大会のご案内

日時

11月19日 19時00分～

場所

ヤングボウル (日之出町駅から徒歩10分)

★年一度の県共闘のレクリエーションです。県共闘加盟労働組合の組合員交流も！多くの皆様のご参加を！

第52次寿越冬闘争のご案内

※越冬突入集会

12月26日 19時～

会場

寿生活館

※冬闘期日

12月29日～1月4日迄

集合時間

9時(作業、切り込み他)

場所

寿公園 (石川町駅徒歩5分)

★ご支援はどなたでも大歓迎です。

JAL 不当解雇撤回情宣のご案内

※定例横浜西口情宣行動※

日時

11月25日 17時30分～

場所

横浜駅中央西口出口付近

※JAL本社行動※

日時

12月9日 18時30分～

場所

天王洲アイル

★JALは2010年大晦日、必要のない解雇を強行。165名を不当に解雇した。経営破綻の責任を取らず不当解雇は放置。不当解雇撤回を求めさらに闘います。

最低賃金の大幅引き上げを！

報告 小内

神奈川県 lowest賃金がこの10月4日から1225円になった。過去最大の引上げ額（63円）ではあるものの、この間の生活必需品を中心とした物価高騰をカバーできていない。最賃近傍で働く労働者の生活は厳しい状況のままである。さらに問題なのが、他府県のことではあるが、改定額の発効日が11月以降のところは27あり、うち6県は越年、秋田県に至っては3月31日改定というありさまである。（秋田県は実質40円の引き上げでしかない。）地域別最賃の問題性が浮き彫りにされた形である。

私たち神奈川県共闘は、今年も最賃大幅引上げを取組んできた。1. 3. 5. 6. 7. 10月に駅頭などでの署名・宣伝行動を、7月にはFF1500実行委員会の取り組みで県共闘を含む21団体が県最低賃金審議会に意見書提出の共同行動を取り組んだ。私たちが目指す「全国一律1500円以上」の実現には至っていないが、運動を止めるわけにはいかない。労働者が安心して生活できる社会を共に作って



（新杉田駅頭での情宣）



（9/23さよなら原発全国集会代々木集会）

9月23日秋分の日、代々木公園で開催の「さようなら原発9.23全国集会」に県共闘傘下労組の仲間と共に参加しました。全国からは4500人が集まり、集会とデモを取り組みました。

午後1時半から始まった集会は、呼び

命と生活を守る闘いを前進させよう！

全国一般神奈川第28回定期大会開催

報告 八木

9月21日、全国一般神奈川の定期大会が行われ、全議案が可決、承認されました。大会来賓は、全国協から大野委員長、望月書記長、全国一般東京労組からは齊藤氏、県共闘から小内事務局長、吉良副議長、寿日労の由良氏、全国一般東京南部から中島委員長（懇親会より参加）、顧問弁護士の穂積弁護士、嶋崎弁護士に出席を頂いて力強い連帯のご挨拶を頂きました。終わりの見えない物価高騰の中、中小企業で働く非正規労働者の実質賃金は上がりず、日々の生活はますます困窮しています。これは長期にわたる自公政権のもとで、労働の対価である賃金が労働者に還元されずに一部の企業や投資家による搾取を止められなかった結果であり、言い換えれば労働組合の組織率の低下が引き起こした必然ともいえます。私たち全国一般神奈川は、地域合同労組として地域・職場で権利と生活を守る砦として日々活動を進めてきました。新執行部体制のもと、労働組合を職場や地

域に根付かせるため、組織化に全力で取り組みましょう。

一方で解雇や雇止めなどの人権侵害への闘いや非正規労働者の待遇改善への取り組みは職場を超えた仲間の支援や連帯が不可欠です。最賃情宣への取り組みや今後山場を迎える争議に向けて大会で確認した団結・連帯の力で闘いに結集していきましょう。また、医療や介護報酬等、原発再稼働など労使交渉だけでは解決できない社会インフラ現場の危機的状況の打開には、組合の社会的発信力を高めていくため、全国の仲間たちとの連帯にも積極的な参加が求められます。新執行部体制となりましたが、今後とも県共闘、地域の仲間と共に闘っていきます。がんばりましょう。



（団結ガンバロー新委員長が先頭に）

26春闘を共に闘おう！第7回郵政産業ユニオン神奈川支部定期大会開催

郵産ユニオンは、9月13日第7回支部定期大会を、横浜・県民活動サポートセンターで開催し、25年度の闘う方針を決定し、活動をスタートした。

大会は、桐ヶ谷書記長の進行で始まり、24年度の支部活動として、25春闘の取り組み、期間雇用社員の均等待遇署名行動の闘い、25年の最賃の闘い報告がされ、組織拡大の報告では、今期は新組合員が加入し積極的に活動に参加していただいている。組織拡大は支部存続のためには欠かせない活動で、ユニオン本部も組織拡大に向けて、春、秋の総対話運動を展開し組織拡大に努めている。さらに、未来塾の開催で組織強化も図っている。一方の職場の労働環境は、人員減による労働強化、社員間格差拡大、コミュニケーション欠如、コンプライアンス形骸化、パワハラ常態化と職場は荒廃している。これら課題の相談先は職場内では私たち郵産ユニオン。その意味では、組織拡大のチャンスは目の前にあると提案し論議が始まった。議案はすべて可決され25年の闘う方針は確認された。組織体制は、桐ヶ谷支部長、竜田書記長の新体制を確認し、労働組合の組織率が減少と言われていますが、県共闘の皆さんと労働運動の発展に向け共に闘っていきます。

報告 佐藤

さよなら原発・気候危機を考えよう！9.23全国集会参加報告

かけ人の鎌田慧さんの挨拶から始まり、落合恵子さんが主催者挨拶で登壇しました。挨拶では、福島原発事故から14年が経過し、政府は「原発回帰」に動いていると現状を指摘。そして原発をなくす運動を「今から、あなたから、

ここからはじめよう！」と訴えました。

その後のパネルトークが行われ、福島で原木しいたけ生産者から原発事故に伴い、厳しい状況に追い込まれた当時の生産現場の苦悩と深刻な原発事故被害状況の報告がありました。